

2019 年度
事業計画書

学校法人 行吉学園

目 次

1	はじめに	p. 1
2	2019年度の事業計画	p. 2
	<中期目標・中期計画に基づく事業計画>	
I	教育に関する目標を達成するための計画	p. 2
1	自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画	p. 2
2	教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p. 2
3	教育内容に関する目標（全学共通教育部・教養教育委員会）を達成するための計画	p. 2
4	教育課程に関する目標を達成するための計画	p. 3
5	教育方法に関する目標を達成するための計画	p. 3
6	国際化に関する目標を達成するための計画	p. 4
II	研究に関する目標を達成するための計画	p. 4
1	研究業績に関する目標を達成するための計画	p. 4
2	学生の研究に関する目標を達成するための計画	p. 4
III	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p. 5
1	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p. 5
IV	学生の進路に関する目標を達成するための計画	p. 5
1	進路支援に関する目標を達成するための計画	p. 5
2	専門就職に関する目標を達成するための計画	p. 5
3	優良企業就職に関する目標を達成するための計画	p. 6
4	公務員就職に関する目標を達成するための計画	p. 6
5	Uターン就職に関する目標を達成するための計画	p. 6
V	学生支援に関する目標を達成するための計画	p. 7
1	学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画	p. 7
2	経済的支援に関する目標を達成するための計画	p. 7
VI	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p. 7
1	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p. 7

VII	入試広報に関する目標を達成するための計画	p. 8
1	入試広報に関する目標を達成するための計画	p. 8
VIII	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p. 8
1	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p. 8
IX	組織に関する目標を達成するための計画	p. 9
1	定員充足に関する目標を達成するための計画	p. 9
2	大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画	p. 9
X	財政に関する目標を達成するための計画	p. 9
1	健全財政に関する目標を達成するための計画	p. 9
(別表)	I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p. 10
3	法人の体制	p. 18
I	設置する学校・学部・学科等（2019年度予定）	p. 18
II	役員の概要（2019年4月1日予定）	p. 19
III	教職員の概要（2019年4月1日予定）	p. 19
IV	組織機構図（2019年4月1日予定）	p. 20

1 はじめに

学校法人行吉学園は、建学以来、豊かな知性を育む教養教育と高度な知識・技術を養う実学教育を通じて女性の自立を支え、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成してきたところである。しかし、昨今の大学を取巻く環境は、受験人口の更なる減少や大手私立大学の定員増等の影響から大変厳しい状況下であり、本学が今後とも発展していくためには、これまでに積み重ねてきた丁寧な教育を基本としつつ、これからの社会が必要とする能力を身に付けた卒業生を輩出していかなければならない。

このため、学校法人行吉学園では、これらの要請に応えていくために取り組むべき各般の施策の方向性を、2019年度を初年度とする5か年で達成する中期目標として定め、また、中期目標を達成していくため行動計画として中期計画を策定したところである。

そこで、中期目標並びに中期計画を達成していくために2019年度に取り組むべき施策の中から主な施策について、事業計画として次のとおり策定する。

2 2019年度の事業計画

＜中期目標・中期計画に基づく事業計画＞

(注) □内は中期計画、「・」は中期計画に対応する事業計画を示す。

I 教育に関する目標を達成するための計画

1 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

【I-1】

自立心・対話力・創造性について、到達度調査の改善をはかり能力獲得の測定ツールとして確立し、各学科等において3つのポリシーに沿った学生の能力の伸長が実現できているか検証を行う。また卒業生アンケート等により、獲得した能力と社会で求められている能力に乖離がないか検証を行う。

【I-1-1】

- ・2018年度に実施された「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査の結果を踏まえて、年次進行による回答傾向の確認等を行いつつ、精度を高めていくため学生に対する調査結果のフィードバックの方法を検討する。また、3つのポリシーが自立心・対話力・創造性を培うものとなっているかの検証を行う。
- ・自立心・対話力・創造性が象徴する能力等の社会生活における有用度や、能力等と生活充実度等との相関関係等を検証するために、卒業生アンケートの実施方法（対象とする卒業生の属性（卒業年度等）、設問内容、対象者数等）を検討する。

2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

【I-2】

各学科、研究科等において、ディプロマポリシーに掲げる能力が身につけているか検証するための指標を開発したうえで目標を設定し、目標達成に向けたカリキュラムの改編など各種施策を実行する。

【I-2-1】

- ・各学科、各研究科等の計画は別表のとおり

3 教育内容に関する目標（全学共通教育部・教養教育委員会）を達成するための計画

【I-3】

本学を卒業した学生全員が身につけておくべき能力に関する指標を開発し、教養科目のカリキュラムを精査するとともに、全専任教員が教養科目運営に関わる仕組みを整備する。英語教育については全学で組織的な教育体制を整備する。

【I-3-1】

- ・日本語力〔文章読解能力、レポート作成能力など〕に関する検定試験として「日本語検定」、「文章読解・作成能力検定」、「漢字検定」などの導入を検討する。

- ・英語については、教育効果の向上を目指して、能力別クラスの編成を検討する。
- ・科目の削減、整理を行うとともに、大学・短大の教養科目の共同運用を目指す。

4 教育課程に関する目標を達成するための計画

【I-4】

大学ではナンバリングを利用した履修指導を行い、短大でもナンバリングを導入したうえで学生の体系的な学習を進める。また、学生の学習時間の確保に向け、履修上限単位数を引き下げるとともに、教養科目及び各学科における専門科目の科目数の圧縮をはかる。さらに、GPA を運用するうえでの課題を整理し、学生指導において有効な活用方法を開発する。

【I-4-1】

- ・学生の履修科目の選択などにナンバリングを活用した履修指導を行う。
- ・GPA を運用するうえでの課題を整理し、履修指導とカリキュラム編成への活用方法を検討する。
- ・授業不開講等のルールを作成するとともに、スクラップアンドビルドを基本に科目数の削減を推進する。
- ・各学科の資格の教育効果や必要性を再検討し、ニーズに合わない資格については廃止を検討する。
- ・授業外学習時間の増加を目指し、CAP 制の厳格化を推進する。

5 教育方法に関する目標を達成するための計画

【I-5】

授業アンケートを充実させ、実際に教育方法の改善につながる仕組みを整備する。また FD 活動に全教員が参加する体制を整備し、教育支援ツールの活用等を推進する。教育効果に向け、IR データの収集・分析を進める。

【I-5-1】

- ・学科単位の授業改善の取組みを推進できるよう委員会体制の構築試案を提示する。
- ・「授業アンケート」の設問を全学向けと各学科向けに再構成するための準備作業に着手する。
- ・授業評価結果を授業改善に結びつけることを全教員に要請するとともに、集中型の授業方法改善研修会の実施に向けて内容を検討する。
- ・教育支援ツールである manaba 等利用教員の授業見学会等の実施を検討する。

6 国際化に関する目標を達成するための計画

【I-6】

英語圏を中心に派遣留学生及び受入留学生の増加をはかる。派遣留学については、プログラムの内容の検証・改善を行うとともに、資格サポートデスクと連携した英語運用能力の向上、保証人の協力を得られる仕組みの整備を行う。留学生の受入については、提携校の開拓と受入体制の整備を行う。

【I-6-1】

- ・ 留学経験者への上級レベル学習プログラムを検討し、複数回参加を推奨する。
- ・ 教員引率のない派遣留学プログラムの開発を準備する。
- ・ 英語ルームで海外大学の学生と通信できる仕組みを整備するとともに、英語圏の留学生受入体制を準備する。
- ・ 資格サポートと連携した TOEIC 講座の受講を推奨する。

II 研究に関する目標を達成するための計画

1 研究業績に関する目標を達成するための計画

【II-1】

教員の職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準を設定し、毎年チェックを行う体制を整備する。研究活性化に向け、学外研究費の情報収集と学内への周知を強化する。

【II-1-1】

- ・ ポイント制など、職位ごとに1年間及び5年間に最低限必要な業績の基準を検討する。
- ・ 研究活性化に向け、学外研究費の情報収集及び学内への周知を強化する。
- ・ 古典芸能研究センターを活用して研究の活性化をはかるとともに、研究成果の教育への還元を進める。

2 学生の研究に関する目標を達成するための計画

【II-2】

学生の研究を活性化するため、大学院生と学部生が交流する機会を増加させるとともに、学会等の情報を提供して参加を促す。また、特別に優れた学部生・短大生の研究・探究活動について表彰制度を整備する。

【II-2-1】

- ・ 各学科・各研究科と学術研究推進部が連携し、大学院生と学部生の交流機会の増加をはかる。
- ・ 特別に優れた学部生・短大生の研究・探究の表彰制度を検討する。

Ⅲ 社会貢献に関する目標を達成するための計画

1 社会貢献に関する目標を達成するための計画

【Ⅲ－１】

地域や企業・団体の課題解決を目的とした連携活動を、学生の教育効果の充実をはかりつつ、地域連携、公開講座、産学連携、高大連携等事業として毎年複数稼働させる。共同研究、受託研究の推進及び各種学協会への公募型研究への教員の応募を支援する。

【Ⅲ-1-1】

- ・ 大学間連携組織、NPO 法人との連携強化、並びに地域貢献活動の情報蓄積システムの開発を行うとともに、ローズフェスタに代わるイベントを企画運営する。
- ・ 地域住民のニーズや参加者の意見等を勘案して公開市民講座を選定し、研究成果の一端をわかりやすく提供するとともに受講動向を検証する。
- ・ 高大連携事業については、すでに教育交流、交流研究活動が行われている高校と協定を早期に締結する。
- ・ 各種学協会への公募型研究のうち、採択実績のある協会等への応募を促進する。

Ⅳ 学生の進路に関する目標を達成するための計画

1 進路支援に関する目標を達成するための計画

【Ⅳ－１】

学生進路満足度及び卒業生離職率に関する調査を導入し、進路支援の指標化をはかる。1年次から卒業まで途切れのないキャリア支援活動を展開するとともに、学科等とキャリアサポートセンターの連携を強化して丁寧な支援を行う。保証人への情報提供を進め、保証人と協力した進路支援を行う。就職だけでなく進学への支援も強化する。

【Ⅳ-1-1】

- ・ キャリア支援活動の展開方策を検討するとともに、ゼミ単位や学科単位でのガイダンスを促進し、S-NAVI（就職支援システム）を活用して学生情報を管理し、各学科と情報を共有するとともに、就職活動を終えた学生に対して「満足度調査」を実施する。
- ・ 有効な卒業生の離職率調査方法をキャリア支援委員会で検討する。
- ・ 編入学・大学院進学希望者全員の進学を目指した支援方策を検討する。

2 専門就職に関する目標を達成するための計画

【Ⅳ－２】

各学科の専門性を活かした就職を支援するため、学科等とキャリアサポートセンター・教職支援センターの情報共有を強化する。就職の前提となる資格試験や教員採用試験の合格に向けてキャリア意識の涵養と対策講座等の活用をはかる。

【Ⅳ-2-1】

- ・ キャリアサポートセンターと学科との連携強化により学生情報の共有化に努めるとも

に、職種ごとの就職ガイダンスを実施する。

- ・教職においては、よりの確な教員採用情報の定期的かつ効果的な提供システムを構築するとともに、教員と連携した2次試験対策を検討する。また、各府県教育委員会との連携・協働が不可欠となるため、可能な府県の法定研修の共催、連携協定の締結を進めて関係強化を図る。

3 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

【IV-3】

事業規模・内容に加え、離職率等の状況も含めた優良企業に多くの学生が内定を獲得できるための受験支援や業種ごとの特徴を踏まえた試験対策を実施する。基礎学力や情報スキルにつき、対策講座や資格講座の活用をはかる。

【IV-3-1】

- ・離職率等を踏まえて選定する「優良企業」への就職の奨励を行い、また就職活動を終えた学生に対してS-NAVI（就職支援システム）を活用して「満足度調査」を実施する。その結果を分析して満足度の高い企業や離職率の低い企業を把握し、「優良企業」の再選定を行う。
- ・注力業種の選定と業種に応じた活動を支援し、業種に特化した説明会等を実施する。

4 公務員就職に関する目標を達成するための計画

【IV-4】

地方の有力な就職先として公務員採用試験の合格を強化する。公務員希望者に対して1年次から意識の涵養をはかり、公務員試験対策講座の受講を勧め、各地域の試験情報、試験内容を提供するとともに、面接対策を実施する。

【IV-4-1】

- ・1年次から公務員対策講座を設定し、公務員希望者の増加をはかる。
- ・地域ごとの試験情報・試験内容を研究し、学生への情報提供を行う。

5 Uターン就職に関する目標を達成するための計画

【IV-5】

Uターン希望率やUターン就職率等の調査を実施したうえで、Uターン希望者の就職を確実に実現する支援を行う。希望者には、1年次から地方優良企業の情報及びUターン奨学金制度等の情報を提供する。また、地方公共団体とのUターン協定を推進するとともに地方優良企業との関係構築をはかる。

【IV-5-1】

- ・地方企業との関係強化を目指し、地方内定企業等への積極的な訪問活動を展開するとともに、地方優良企業の学内説明会を増加させる。

- ・中国・四国地方全県との U ターン協定を締結する。
- ・卒業生進路調査を基に U ターン希望者の就職率を把握し、特長化を図る。

V 学生支援に関する目標を達成するための計画

1 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

【V-1】

不満足要因が追究できるよう学生アンケートの内容を精査し、学生満足度及び帰属意識に関する指標を開発する。退学者予備軍の把握が可能な仕組みと関係部署によるフォロー体制を整備する。学生の出身地域別コミュニティによりピアサポートを活性化させる。また、各クラブの活性化をはかるための魅力あるクラブ育成を検討する。

【V-1-1】

- ・退学者の要因を分析するとともに、他大学の満足度調査の事例を研究し、学生満足度の調査項目を構築する。
- ・履修相談、進路相談等を気軽に行える仕組みを整備するために、他大学の出身地域別コミュニティ組織の情報を収集する。
- ・クラブ活動を新入生に周知するとともに、クラブ活動の活性化対策を講じる。

2 経済的支援に関する目標を達成するための計画

【V-2】

各種団体等の奨学金制度の情報収集と学生への周知を強化するとともに公営住宅、民間住宅等の空家対策と連携して低家賃住宅確保の方法を検討する。

【V-2-1】

- ・公共団体、福祉施設及び病院等における奨学金制度の情報を収集するとともに、内容を精査し、導入の可否を検討する。
- ・公営住宅、UR、民間住宅等で低家賃住宅として学生に紹介できる物件の有無を確認し、管理先へのヒアリングと住宅内容の精査を行う。

VI 施設・設備に関する目標を達成するための計画

1 施設・設備に関する目標を達成するための計画

【VI-1】

施設・設備及び教育環境に関する学生満足度指標を開発し、学生のニーズに配慮した整備計画を策定するとともに時代の変化に対応した情報教育機器の整備と定期的な更新をはかり、施設・設備及び教育環境の改善をはかる。学生の大学生活充実に資するスペースの改修を進める。

【VI-1-1】

- ・施設・設備及び教育環境に関する学生へのアンケートを実施し、これをもとに必要な整

備を実施する。

- ・ 須磨キャンパスについて、A 館のラウンジの更新を含め、噴水・中庭・掲示板等を含めた全体的な改修計画を検討する。
- ・ PI キャンパスのカフェスペースの整備を検討する。

VII 入試広報に関する目標を達成するための計画

1 入試広報に関する目標を達成するための計画

【VII-1】

各学科との連携を強化し、就職・資格取得に強い本学の特長に関する積極的な広報活動を実施する。質の高い情報提供や出前授業による高校との関係強化をはかるとともに、地域や高校の特徴に応じたより戦略的な広報活動を展開する。高大接続改革に対応した入試制度の改革を進め、多面的な評価により意欲・能力ともに高い学生の獲得を実現する。

【VII-1-1】

- ・ キャリアサポートセンター、教職支援センター及び国家試験対策事務室等との連携を強化し、卒業生・在学生の就職・国家試験合格実績や支援体制等に関するより具体的な情報を発信して、本学の特長の認知度を高める。
- ・ 地域ごとに志願者の動向を分析し、その結果に応じた広報の展開、ツールの作成を行う。
- ・ 入試結果や各種模擬試験の動向について学科ごとに分析を行い、学科の特性に応じた入試制度について検討する。

VIII 幼稚園に関する目標を達成するための計画

1 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【VIII-1】

地域の児童数の将来予測や他園の運営状況を分析し、定員確保に向けて運営形態、運営方法の見直しをはかる。無償化を含めた就学前教育制度の変革に対応していく。

【VIII-1-1】

- ・ 定員確保に向け、こども園への移行を含めた運営形態、運営方法の見直しとともに、預かり保育の充実、小規模保育施設との連携等を推進する。

Ⅸ 組織に関する目標を達成するための計画

1 定員充足に関する目標を達成するための計画

【Ⅸ-1】

社会が必要とする人材及び受験生が志望する分野の動向を把握し、常時各学科等の教育内容の見直しや新学科等の設置を含め学科の在り方等を検討していく。

定員未充足の組織については、未充足の期間によって改組や廃止を進める基準を整備し、早期の改善につなげる仕組みを構築する。

【Ⅸ-1-1】

- ・定員未充足を解消していくための基準を2019年度第1四半期中に策定し、基準に該当する学科には対策の検討を依頼する。また、対策の実施状況等の進行管理体制を確立する。
- ・社会情勢及び受験生の動向の把握、他大学の改組等に関する情報の収集を行う。

2 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

【Ⅸ-2】

法令上の制約等を踏まえたうえで、教学部門の組織や委員会等について統合もしくは合同設置等を行うことにより、効率的かつ効果的な運用が行えるよう体制整備をはかる。

【Ⅸ-2-1】

- ・大学及び短期大学の委員会については、可能なものから、大学・短大の合同開催を導入していくとともに、委員会の統廃合について検討を行う。
- ・大学・短大の一体的運用に向け教学組織の見直しを行う。

X 財政に関する目標を達成するための計画

1 健全財政に関する目標を達成するための計画

【X-1】

寄付金や資産運用収入の増加をはかるとともに、管理経費や人件費等の見直しを行い、財務体質の強化を進める。人件費については、将来に亘り運営が可能な人員配置及び各種制度の変更を検討する。

各学科の科目数・コマ数の適正化をはかり大学・短大全体で効果的な教育課程を整備する。

【X-1-1】

- ・管理経費の比率が高い部署の予算管理を徹底するとともに、共通教育費予算や短期大学予算のあり方等を検討する。
- ・教職員定数と人員削減計画の策定、並びに教職員の人事・給与制度等の見直しを検討する。
- ・履修人数による授業不開講と科目廃止のルール化を推進する。
- ・古典芸能研究センターを含めた研究費全体のあり方について、効果、効率の観点から見直しを行う。

(別表)

I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

神戸女子大学

文学部	2019 年度計画
日本語日本文学科	<p data-bbox="635 376 1350 562">各ゼミでの発表・討論・文章作成の機会の拡充、日本語関連検定の活用等の対策を講じることにより、専門性を高め、それとともに日本語運用能力、表現力及びコミュニケーション能力の向上に取り組む。</p> <ul data-bbox="635 577 1350 987" style="list-style-type: none">・日本語関連検定（文章読解・作成能力検定など）の単位化を進めるとともに日本語表現ツールとして MOS 等の資格取得を推奨する。・1年次のカリキュラムについて、古典文学・古典芸能入門の内容をより親しみやすいものになるように見直し、2年次以上のカリキュラムについて、基礎学力向上に向けた新科目を設定する。・夏期休暇中のボランティア、インターンシップ、留学等を積極的に推奨する。
英語英米文学科	<p data-bbox="635 1019 1350 1249">自学自習が可能な e-learning、TOEIC レベル別夏季集中講座、アドバンストクラスを新たに設ける等の対策を講じることにより、英語運用能力及び専門性の著しい強化に取り組むとともに、学外での英語ボランティアなど英語を活用する学びを取り入れる。</p> <ul data-bbox="635 1265 1350 1534" style="list-style-type: none">・専門性及び英語運用能力強化に向けた取組として、アドバンストクラスの導入、文法や読解力向上に役立つ教材の開発、ハワイ実習後の上級プログラムの導入、TOEIC 点数の引上げに向けた集中講義の実施等を検討するとともに、卒論を全員英語で執筆できるように指導を行う。
国際教養学科	<p data-bbox="635 1563 1350 1749">少人数クラス授業の展開、新たな交換留学の開始等の対策を講じることにより、語学力及び専門性の強化に取り組むとともに、外国語を活用したフィールドワークを取り入れる。</p> <ul data-bbox="635 1765 1350 1982" style="list-style-type: none">・専門性及び語学力強化に向けた取組として、少人数クラス授業の展開、留学生受入に資するプログラムの開発を検討する。・外国語を活用したフィールドワークの開拓に向け、観光ボランティアなどの情報を収集する。

史学科	<p>歴史についての基礎知識を充実させ、歴史学の基本原則に沿いつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるため、歴史学の基礎科目を追加するとともに課題解決型授業としての演習科目をいっそう充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史についての基礎知識や基礎技能を充実させ、伝統的な歴史学の基本原則や学問作法を堅持しつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるカリキュラム編成と指導体制を検討する。 ・授業内容に具体的なイメージをもてるような副題を全科目に付すとともに学生の研究活動の活性化、及び異学年交流のための合同ゼミ発表会を試験的に実施する。 ・キャリア意識の涵養強化に向けて取り組む。
教育学科	<p>学習環境を更に整備し、幼稚園教諭・保育士、小学校教諭養成の充実を図るための、アクティブ・ラーニング型授業を推進する。また、中学校教諭（英語）の養成を開始し、英語指導力の強化に向けた科目を設定する。専門性の向上を目指しカリキュラムの見直しとコース選択時期の前倒しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性強化及び教員採用試験合格に向けた取組として、中学校教諭（英語）導入に伴うコース改編の準備とともに、英語力・英語指導力の特長化に向けて英語力・英語指導力養成科目の設定、1年次での海外短期留学の推奨にかかる準備を行う。 ・教職・保育職対策講座を推奨し、教員・保育士採用試験、就職、院進学 of ゼミ単位での管理を実施する。 ・1年次から自習・教員採用試験対策・TOEIC テスト受験等に取り組めるよう課題提供のための仕組みを検討する。 ・教員採用試験の2次試験対策へ全教員が参画する体制を検討する。

家政学部	
家政学科	<p>コース体制の問題点の把握と改善を実施し、家政学の体系的な学びを構築するためのカリキュラムの見直しを行うとともに、家庭科教員養成校としての役割の強化及び各種資格を活用した学びを展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに策定したカリキュラム改編における専門共通科目群の改訂案を精査する。 ・学生が専門性を活かした資格取得に主体的に取り組むように指導を行う。
管理栄養士養成課程	<p>管理栄養士のリーダーとなりうる人材を養成するため、専門性を伸ばすためのカリキュラム改編と、期待する能力に関する指標を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性強化及び国家試験全員合格にむけた対策として、成績不良者のフォローの組織化及びディプロマポリシーに合致した専門性を伸ばすカリキュラムの構築を検討する。 ・キャリア意識の涵養強化に向けた取組として、業種別ガイダンス（医療機関就職等）、教員採用試験対策講座の検討を行うとともに国家試験合格、就職、院進学ของゼミ単位での支援を実施する。
健康福祉学部	
社会福祉学科	<p>専門性強化に向けたカリキュラムの改編を行うとともに、社会福祉士等3種の国家資格取得に向けて、1年次から意識向上のための取組を充実強化し、3年次には各国家資格受験希望学生が本格的な受験勉強に取組み始める仕組みを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士養成カリキュラムの改正に合わせ、教育課程改編の準備を行う。 ・各学年で実施している学年横断的な取組（合同ゼミ・実習報告会・事例検討会・卒論発表会等）をさらに強化する。 ・国家試験等の合格率、就職率、院進学について、学科全体での管理とともにゼミ単位で把握し分析を行う。 ・学生面談で受験する国家試験を明確に把握するとともに復習講座等の充実をはかる。

健康スポーツ栄養学科	<p>初期教育の強化をはかるとともに、中学校、高校の保健体育教諭の養成を開始して、スポーツ分野の特長を明確化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年度の開設を目指し、中学校・高等学校教諭（保健体育）課程の認定申請を行う。 ・ 研究の活性化、大学院希望者の基礎力の引上げ及び異学年交流の促進をはかるため、卒論・修論発表会に 2 年次生以上の参加を促す。 ・ 卒論の評価基準を明確化するため、栄養系・運動系を総合したルーブリックを作成するための準備を開始する。
看護学部	
看護学科	<p>カリキュラム評価をもとにした授業科目の開講期の変更を行う。ディプロマポリシーに掲げる能力の修得を検証する教育評価アンケートをもとに、教育の充実をはかるとともに学生が個々の学習課題に自主的に取り組める仕組みを整備する。また、保健師・助産師・看護師国家試験全員合格に向けた 1 年次からの学習支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ・オブ・プラクティスの考え方をもとにした看護学教育カリキュラムの試みで明らかになった知見及び学生への教育評価アンケート結果をもとに、本学科の教育の特色を明示する。 ・ 国家試験全員合格に向け、2018 年度までの学習支援内容及びその効果を評価し、その結果に基づいて支援体制を検討する。 ・ 卒業生のフォローアップ及び相談窓口を Web 上に開設する。

神戸女子大学大学院

<p>文学研究科</p>	<p>指導教員の研究能力の向上をはかるとともに、大学院と学部の合同研究会を開催し、研究の魅力を普及して学部生の進学意欲を喚起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員に必要とされる業績数について議論を行う。 ・ 学部ゼミでの研究を活性化しつつ、大学院と学部の合同研究会を開くなど研究の魅力を普及し、学部生の進学意欲を喚起する。 ・ 学内の他研究室、他大学との交流を活性化し、外部の学会への積極的な参加を促す。 ・ 院生の進路希望を把握し、キャリアサポートセンターと連携してきめ細かい進路指導を実施する。
<p>家政学研究科</p>	<p>指導教員の研究能力の向上をはかり、業績の数値化を行う。教職免許志望者に対して教員のリーダーを目指すキャリア教育を実施する。また、インターンシップ、留学などの制度化のありかたを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の業績について、現状の教員評価案の改良版を作成し、数値化の検討を開始する。 ・ 学部ゼミでの研究活性化と院生の研究発表会への学部生の参加を促すとともに、学部の活動に院生を積極的に参加させる。 ・ ハワイクワキニ病院でのインターンシップ制度の導入等魅力ある制度を検討する。
<p>健康栄養学研究科</p>	<p>指導教員の業績をまとめ数値化を行う。他研究科または、近隣他大学とのダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーの検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の業績の数値化に向け、第1次案を作成し議論を開始する。 ・ 大学院生の中間発表会や修士論文の発表会に学部生が参加しやすくなる方策を検討する。 ・ 看護学研究科や家政学研究科とジョイント・ディグリー制度の可能性について検討を始める。
<p>看護学研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置申請内容に沿い、着実に初年度の運営を行う。

神戸女子大学専攻科

<p>学校教育学専攻科</p>	<p>実践的で高度な能力に関する指標を開発・作成し、目標数値を設定するとともに学部との接続強化はかる。指導教員の業績をまとめ数値化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的で高度な能力に関する指標を開発し、数値目標を設定する。 ・学部ゼミとの接続を強化する。
-----------------	---

神戸女子短期大学

<p>総合生活学科</p>	<p>学生の学修成果・総合的学び及び学問に基づく実践力の強化に向けた取組とカリキュラムの改編を行う。また、各種資格を活用した教育を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の特徴・意欲・実践力強化に向けた取組として、建築士等の資格の有効性を検証するとともに、科目数削減を含めたカリキュラムの見直しを実施する。 ・情報系の資格取得に向けた情報科目の再編について検討する。 ・意欲の高い学生に向けた進路別履修モデルを作成する。 ・大学への接続機能を特長化するため、大学教員の出前授業の実施等により家政学科・社会福祉学科と連携した編入の推進を実施する。
<p>食物栄養学科</p>	<p>子どもの食育を特長化し、カリキュラムの見直しを行うとともに、学外の幼児教育施設・機関と連携した教育を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食育など専門性の強化、特長の明確化及び学生の意欲引上げに向けた取組として、学外フィールドワーク科目を設定するとともに既存科目の内容を強化する。 ・卒業生への国家試験対策及び研修会を実施する。 ・「大学等における履修証明制度」を活用して、社会人を対象とした食品や栄養、食育に関する体系的な教育プログラムを検討する。

<p>幼児教育学科</p>	<p>保育実践力の向上を図る取組を行うとともに公立幼稚園教諭・保育士採用試験合格に向けた学習支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実践力引上げに向けた取組として、保育ボランティアのフィールドワークを検討するとともに保育実践力を特長にしたカリキュラム編成を図る。 ・ 意欲のある学生の教員採用試験対策を強化するとともに、保育士再就職支援講座を開設して卒業生の支援を実施する。また、編入希望者が編入して小学校教諭免許を取得する進路について、大学と協力してフォロー体制を整備する。 ・ 公的支援・民間保育所からの修学資金の確保について学生課と連携体制を構築する。
---------------	--

3 法人の体制

I 設置する学校・学部・学科等（2019年度予定）

区 分	学部・学科等		入学定員	収容定員	予定数	
神戸女子大学 大 学 院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	16	8
			後期	2	6	2
		生活造形学専攻	前期	6	12	2
			後期	2	6	1
	小 計			18	40	13
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	8	0
			後期	2	6	0
		英 文 学 専 攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	0
		日本史学専攻	前期	4	8	2
			後期	2	6	1
	小 計			24	56	8
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻		4	8	9
	看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	8	9
後期			3	3	5	
合 計			57	115	44	
神戸女子大学	家 政 学 部	家 政 学 科		80	320	351
		管理栄養士養成課程		160	610	620
		小 計		240	930	971
	文 学 部	日本語日本文学科		60	240	277
		英語英米文学科		60	240	262
		国際教養学科		40	160	226
		史 学 科		60	240	265
		教 育 学 科		165	660	707
		小 計		385	1,540	1,737
	健康福祉学部	社会福祉学科		80	320	269
		健康スポーツ栄養学科		80	300	298
		小 計		160	620	567
	看護学部	看護学 科		90	330	361
学校教育学専攻科			15	15	0	
合 計			890	3,435	3,636	
神戸女子 短期大学	幼児教育学科		100	200	158	
	総合生活学科		120	240	194	
	食物栄養学科		120	240	181	
	合 計		340	680	533	
神戸女子大学附属高倉台幼稚園			100	200	150	
総 計			1,387	4,430	4,363	

II 役員の概要 (2019年4月1日予定)

(1) 定数等

区分	定数	実数			任期	備考
		常勤	非常勤	計		
理事	8人	6人	2人	8人	4年	1号理事(学長)の任期は在職期間
監事	3人	—	3人	3人	4年	

(2) 寄附行為の選任条項

(理事)

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 神戸女子大学長

(2) 評議員のうちから評議員会において選任した者 4人

(3) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 3人

2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いた時は、理事の職を失うものとする。

(監事)

第7条 監事は、この法人の理事又は職員(学長、教員その他の職員を含む。)又は評議員以外の者のうちから理事会において選任する。

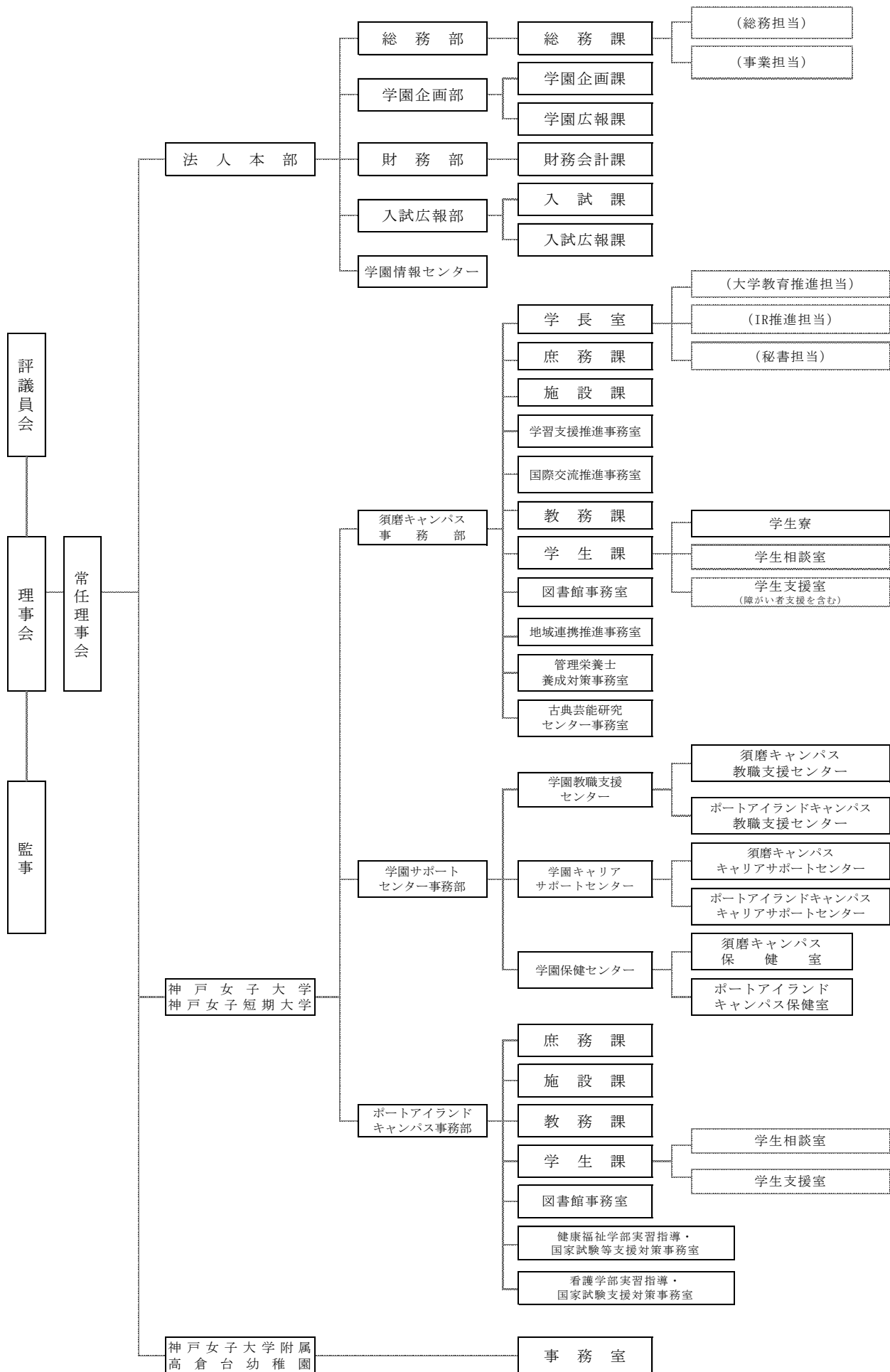
(3) 役員一覧

区分	氏名	就任年月日	重任年月日	選任区分	選任条項
理事長	行吉 宜孝	H31.4.1	—	学識経験者	6-1-3
理事	栗原 伸公	H31.4.1	—	神戸女子大学長	6-1-1
理事	今井 修平	H18.4.1	(H30.6.29)	評議員	6-1-2
理事	前田 研史	H31.4.1	—	評議員	6-1-2
理事	伊吹 眞澄	H30.6.29	—	評議員	6-1-2
理事	杉原 基弘	H31.4.1	—	評議員	6-1-2
理事	根岸 成直	H18.6.29	(H30.6.29)	学識経験者	6-1-3
理事	小川 清四郎	H30.6.29	—	学識経験者	6-1-3
監事	横田 成樹	H26.6.29	(H30.6.29)	理事会選任	7-1
監事	亀井 尚也	H23.5.27	(H30.6.29)	理事会選任	7-1
監事	芳木 伸吉	H18.6.29	(H30.6.29)	理事会選任	7-1

III 教職員の概要 (2019年4月1日予定)

区分	法人本部	神戸女子大学	神戸女子短期大学	附属高倉台幼稚園	合計
専任教員数	—	186	38	8	232
専任職員数	8	70	11	3	92
計	8	256	49	11	324

IV 組織機構図 (2019年4月1日予定)





「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

Tel : 078-303-4712

Fax: 078-303-4713